

6月1日から7日までは「第67回水道週間」です。

今年は、大阪広域水道企業団と協働で、令和7年6月1日よりタケダハムはびきのコロセアムで、大阪広域水道企業団の企業団水を配付するとともに、クイズに正解した方の中から抽選で100名の方に「防災ボトル」が当たるキャンペーンを実施します。

今年の水道週間のスローガンは、「透き通る 誇れる水に 感謝する」です。

水道週間は、国土交通省、大阪府をはじめ各市町村の水道事業者等によって実施される様々な広報活動等の運動を通して、国民各層に対して、水道の現状や課題について理解を深め、今後の水道事業の取組について協力を得ることを目的として毎年実施されています。

この機会を通して市民の皆様一人ひとりに水の大切さや水質保全を理解していただくとともに、将来に向かって、大切な資源である“いのちの水”について関心を更に深めていただくようお願いします。

【画像をクリックすると拡大されます。】

大阪広域水道企業団 × 羽曳野市

みずから備えよう 防災ボトル プレゼントキャンペーン

期間：令和7年6月1日～6月30日

クイズに正解した方の中から 抽選で 100 名様

対象者：大阪府内42市町村にお住まいの方

応募方法：以下の2次元コードを読み取って申込みフォームからお申込みください。

お問い合わせ先：大阪広域水道企業団 経営管理部経営企画課 電話 06-6344-6864

みずから備えよう

日本は地震や台風などの災害がとて多い国です。私たち水道事業者は、災害に強い水道を作るため、様々な取組を行っています。万が一に備え、家庭や職場でも飲料水の備蓄をお願いします。

生命を維持するのに必要な飲料水の量は、「1人1日3リットル」と言われています。地震などの災害発生時に、緊急給水体制が立ち上がるまでの日数(目安が3日)とされているので、1人当たりの水の量は3リットル×3日=9リットルを確保しておくことが望ましいです。

日常生活で節水を使いながら、常に必要な量のストックを確保しておきましょう。

※1 生命を維持するのに最低限必要な水に、調整して使用する水を含みます。
※2 大規模災害に備えるには「1週間以上」の備蓄が望ましいとされています。

計算してみよう あなたの家の備蓄目安量は？

3 × 3 × =

リットル 日以上 人 リットル以上

災害に強い水道をめざして

私たち水道事業者は、災害時においても「利用者の皆さまが安心できる給水の確保」をめざして、災害に強い施設整備を進めるとともに、迅速に水を供給できる体制づくりに努めています。

- ◆水道施設の耐震化等：水源地・浄水場・ポンプ・配水池などの設備に加え、施設の耐震化を進めています。特に、老朽化したポンプ・配水池の耐震化を進めています。
- ◆水道管の更新・耐震化：主要な水道管の更新・耐震化を進めています。また、老朽化した水道管を、速やかに更新・耐震化しています。
- ◆給水機具の整備：高層ビル・商業施設（ホテル等）に給水設備を設置し、断水時の給水機具を整備しています。断水時の給水機具（給水機）に、断水時の給水機具（給水機）に水を供給します。

みずまる

節水の水道事業者が、皆様からご意見を伺って、節水の取組を進めています。

水道料金を活用しています

水道事業の経営に必要な費用のほとんどは、利用者の皆様にお支払いいただいた水道料金によってまかなっています（独立採算制）。将来にわたって水道水を安心して利用するためには、水道施設（浄水場や配水池、水道管など）の更新・耐震化を進める必要があります。そのためには多額の費用がかかるので、水道料金を適切に活用し、災害に強い水道をめざして計画的に工事を進めています。

水道料金の使われ方	
水源地・浄水場・ポンプ・配水池に占める費用	44%
給水機具に占める費用	56%

※令和7年度（2025.3.1）の概算

安全安心な水道水

安全で良質な水道水をお届けするために、水源・浄水場での浄水処理過程、浄水場から送り出す水道水、給水栓（蛇口）に至るまできめ細やかな水質管理を行っています。また、近年の種々な水質の問題に対処できるよう、最新の分析機器を備え、水道法に基づき安全性を確保しています。